

平成 28 年の交通事故死者数

はじめに

これは警察庁ホームページと（一財）全日本交通安全協会が発行している「人と車」1月号から内容を抜粋したものである。

平成 28 年中の交通事故による 24 時間以内の死者数は、3,904 人で、昭和 24 年（3,790 人）以来、初めて 4 千人を下回った。交通事故発生件数や負傷者数も 12 年連続で減少した。一方、死者数全体に占める高齢者（65 歳以上）の割合は 54.8%とこれまでで最も高かった。

■ 交通事故死者数の推移

過去において最も多かったのは昭和 45 年で、16,765 人であった。以後、死者数は減少に転じ、昭和 51 年には 9,734 人と、昭和 45 年以来初めて 1 万人を下回った。その後再度増加傾向に転じ、昭和 63 年には 10,344 人と、1 万人を上回った。

しかし、平成 8 年には 9,943 人と 9 年振りに 1 万人を下回り、平成 13 年には 8 千人台、平成 15 年には 7 千人台、平成 17 年には 6 千人台、平成 19 年には 5 千人台、平成 21 年には 4 千人台となって、「交通戦争」と呼ばれた頃の 4 分の 1 以下となった。

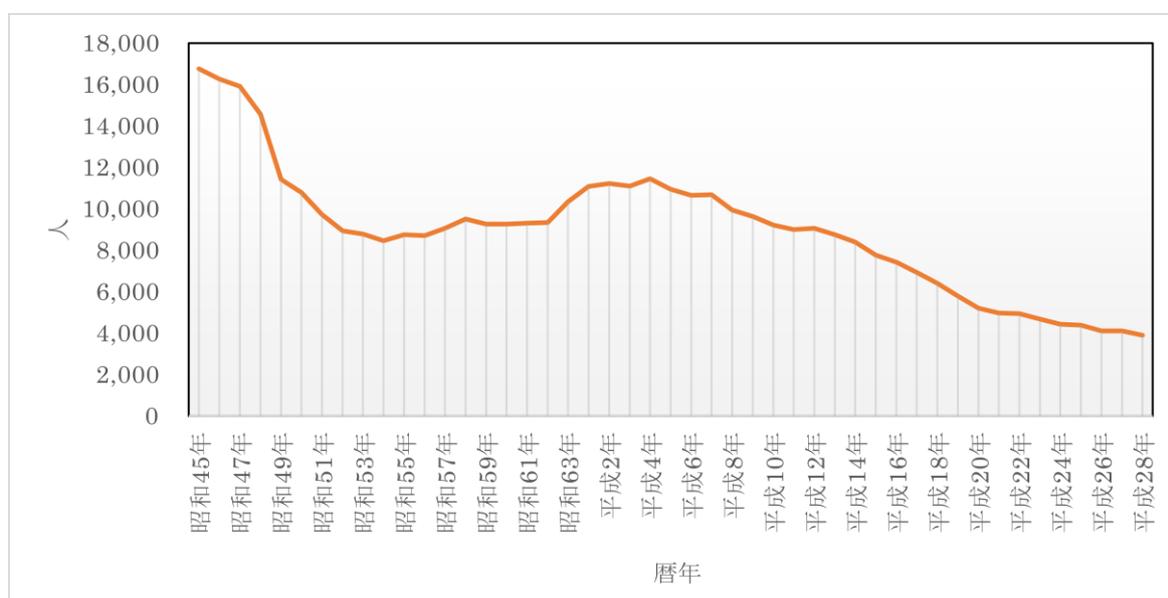


図 1 交通事故死者の推移（昭和 46 年までは沖縄県を含まない）

■ 月別の交通事故死者数

1月 349 人、2月 261 人、3月 321 人、4月 309 人、5月 323 人、6月 264 人、7月 294 人、8月 328 人、9月 309 人、10月 376 人、11月 350 人、12月 420 人と、12月が最多であった。この傾向は毎年変わらない。

■ 1日当たりの交通事故死者数

1日当たりの平均死者数は10.7人で、これは2時間15分に一人が亡くなる計算になる。最多は12月の13.5人、最少は2月の9.0人だった。

■ 都道府県別の交通事故死者数

最多は愛知県の212人、次いで千葉県185人、大阪府161人、東京都159人、北海道158人であった。また、最少は鳥取県17人、次いで山形県・島根県28人、山梨県・佐賀県35人と続いた。

これを人口10万人あたりで見ると、最多は福井県・徳島県の6.48人、次いで香川県6.25人、長野県・高知県5.77人であった。また、最少は東京都の1.18人、次いで神奈川県1.53人、大阪府1.82人、埼玉県2.08人と続いた。

■ 飲酒交通死亡事故件数の推移

原付以上の運転者（第一当事者）の飲酒交通死亡事故件数は以下のとおりである。平成20年までは激減しているが、その後は概ね減少傾向にある

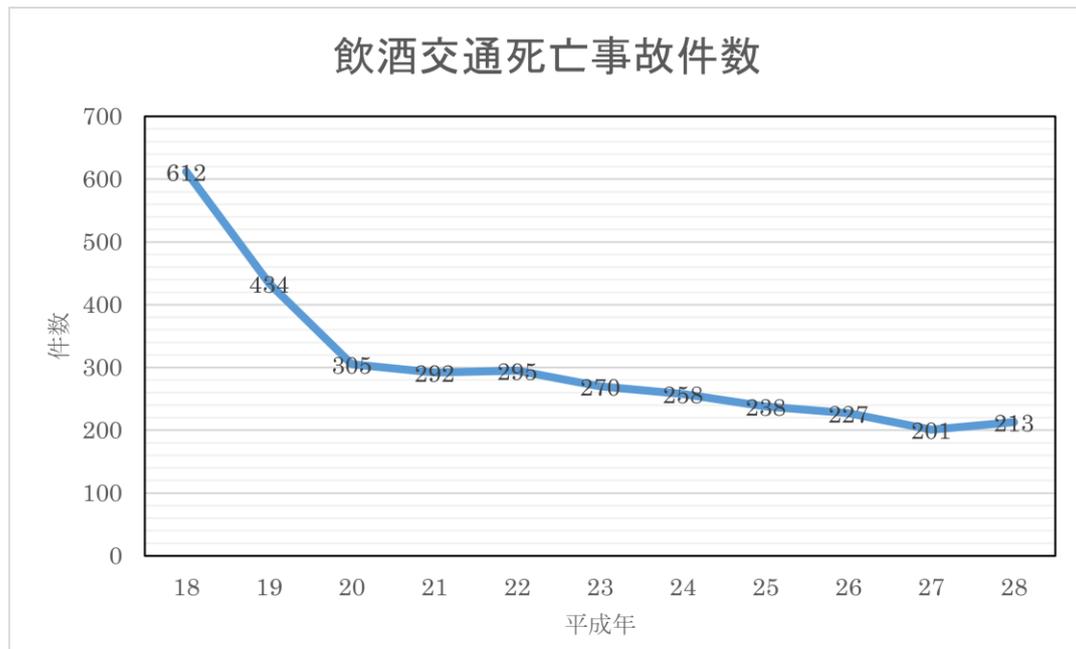


図2 飲酒交通死亡事故件数（平成18年～28年）

以上